

Mich

Minoh City Hospital

2009.2 Vol.18



<http://www2.city.minoh.osaka.jp/HOSPITAL/home.html>

編集発行：箕面市立病院広報委員会 ☎ 072-728-2001(内線2718)

INDEX

- | | | | | | |
|----------------|-------|-------|------------------------------|-------|-----|
| 1. チーム医療特集 | ————— | P.1 | 6. Wave of Nursing (看護部ニュース) | ————— | P.6 |
| 2. 地域医療室だより | ————— | P.2 | 7. 医療・看護フェアのお知らせ | ————— | P.6 |
| 3. 骨粗鬆症外来 | ————— | P.3 | 8. 新任医師紹介 | ————— | P.7 |
| 4. みなさまの声 | ————— | P.3 | 9. 部門紹介 | ————— | P.7 |
| 5. 診療科からのメッセージ | ————— | P.4~5 | 10. クリスマスコンサート | ————— | P.8 |

チームで糖尿病を支援しています！

厚生労働省の統計では、わが国の糖尿病患者数は糖尿病疑いの人まで含めると約1,870万人(2007年)で、40歳以上では約3人に1人に及びます。車の利用・歩かなくなったなど、栄養過多に傾く現代の生活習慣を反映し、「自己管理の病気」とも位置づけられていますが、その数は増加の一途をたどっています。糖尿病がこれほどまでに取り上げられるのは、脳梗塞や心筋梗塞等の致命的血管合併症、あるいは失明・透析・皮膚潰瘍などにつながる基礎疾患として大変重要だからです。ですから糖尿病の予防・治療・合併症進展抑止にはさまざまな診療科・部門による包括的医療が望まれます。

当院の糖尿病支援チームは、内科・皮膚科・眼科医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、臨床検査技師の計20名(うち糖尿病療養指導士8名)で構成され、糖尿病の自己管理を目指して、身体的・精神的の両面を支援する目的で活動しています。主な活動内容は、

入院患者さまに対するチーム回診、糖尿病教室による病気の啓蒙、職員に対する院内研修などです。チーム回診では、入院中の患者さまの療養計画立案や治療、療養指導方針を検討し、患者さまにフィードバックすることで療養意欲を高めていただき、退院後も療養が継続できるよう支援しています。

また、糖尿病教室では入院、外来患者さまに対し、チームメンバーが専門的な基礎知識を提供し、糖尿病の理解を深めていただいています。

さらに糖尿病教室だけでは網羅しきれない入院患者さまに対して、本年2月16日からは糖尿病の基礎的知識を系統的に提供するために週4回「糖尿病サロン」も開催しています。このサロンを通じて、チームとして日々患者さまに関わることで、患者さま・ご家族の病気療養についての理解をより深いものにし、生活の質の向上に結びつけていただけると考えています。



- 
- 3列目左から：富久看護師、畑管理栄養士、篠木管理栄養士、柿崎看護師、西眼科医師
 2列目左から：川端薬剤師、東山看護師、竹内看護師、立花看護師、向井看護師、田崎看護師
 1列目左から：萬雲検査技師、井端内科医師、小室内科医師、正田内科医師、松本(千)皮膚科医師

地域医療室だより



医療相談業務から ～事例紹介～

前号では相談件数の多い「転院調整」について紹介しましたが、今号からは入院患者さまの在宅復帰の調整について、相談事例を通して地域医療室の関わりを紹介します。

在宅復帰の調整は、主に在宅介護を主訴とした相談と、在宅医療を主訴とした相談に二分されますが、実際はこの2つが複雑に絡み合っただけで、個々多様な相談事例となります。今号では、在宅介護を主訴とした相談事例を通して、当室の相談対応（退院調整）の内容を紹介します。

在宅復帰に際して 介護サービスが必要となった事例

在宅介護の相談に対しては、「介護保険サービス」、「障害者自立支援サービス」などの公的サービスを軸に相談対応（退院調整）を行ないます。

患者：70歳代 女性

病名：右大腿骨頸部骨折（退院時には杖歩行が可能となる見通し）

家族構成：独り暮らし。長男夫婦、孫（小学生）二人が近所に住む。

相談者：長男

相談主訴：①本人は退院後も独居を希望しているが、歩行が不安定で転倒など事故が心配。

②子供夫婦は共働きをしているので日中は関われない。

③本人は、料理が好きなのでできる範囲で調理はしたいが、掃除、洗濯、買物はしばらくできないと話している。

調整内容：独居の継続、転倒防止などに配慮して、介護サービス（家事援助、住宅改修）の利用調整を行なうこととした。

①介護保険制度について説明し、介護認定申請を支援した。

②ご家族の話の内容から、ホームヘルパーによる家事援助と転倒防止のための住宅改修を長男に提案。

③介護認定申請後、約1ヶ月で要介護1に認定されたため、ケアマネジャーを決定し、病状やリハビリテーションの状況、希望するサー

ビス内容を伝える。

退院前にケアマネジャーが来院し、ご本人と面接の上ケアプランを作成。

*患者さまの病状だけでなく、生活環境や家族の状況もお聞きしながら退院後の現実的な問題を一緒に考え、相談員がサービス内容を提示し、患者さまとご家族に選択、決定していただくという流れで行ないます。

調整結果：ご本人は退院後の生活に不安を感じていたが、介護サービスの準備が整ったため安心して退院された。

次号では、退院後も点滴や経管栄養などの在宅医療が必要となられた事例について、退院時の調整内容をご紹介します。



介護保険制度について

介護保険の被保険者で、要支援、要介護の状態であると認定された方が、各種の介護予防・介護サービスを利用できる制度です。

認定申請はお住まいの市役所の介護保険担当課、または地域包括支援センターへ申請（代理申請も可）します。

※箕面市の申請窓口

●高齢福祉課 介護認定担当 ☎072-727-9559（直通）

●地域包括支援センター

西部地域包括支援センター ☎072-720-5592

（担当地域：箕面・箕面公園・温泉町・西小路・牧落・新福）

北部・西南地域包括支援センター ☎072-725-7029

（担当地域：止々呂美・下止々呂美・百楽荘・桜井・さくら・半町・瀬川・桜ヶ丘・森町北・森町中）

中央地域包括支援センター ☎072-727-9511

（担当地域：稲・豊野・西宿・今宮・外院・石丸・白鳥・坊島・如意谷・船場西・船場東）

東部地域包括支援センター ☎072-729-1711

（担当地域：大字栗生間谷・栗生間谷東・栗生間谷西・栗生外院・栗生新家・小野原東・小野原西・彩都栗生南・彩都栗生北）

診療科からのメッセージ《内科・外科》 当院では内科・外科が

上部消化管グループ 内科 西原医師

上部消化管グループには、内科医師4名、外科医師4名が在籍しており、扱う疾患は多岐に及びますが、その中でも食道癌・胃癌を中心に診断・治療を行っています。現在、これらの疾患の治療は、早期であれば内視鏡的治療、進行すれば外科的手術、さらに進行すれば抗癌剤治療や放射線治療となります。それぞれの患者さまの状態に応じた適切な治療を行うため、当院では毎週水曜日に合同の内視鏡検査を行い、治療方法を検討しております。近年は特に内視鏡治療を積極的に行い、より患者さまの身体的負担を軽減するよう努力しております。



後列/内:亀山医師、内:山北医師
前列/外:間狩医師、外:飯島医師、内:西原医師

下部消化器グループ 外科 三宅医師

下部消化管グループでは、大腸内視鏡検査、内視鏡的手術、外科手術、さらに外来化学療法を行っています。大腸内視鏡検査を年間1,600名以上の方に行っており、その際に大腸ポリープが発見された場合にはその場ですぐに内視鏡的にポリープ切除術を行っています。内視鏡的には切除できない腫瘍が発見された場合には外科手術を行っています。大腸癌手術症例数は年間約140名です。傷が小さな腹腔鏡下大腸切除術を積極的に行っており、2008年では約70%の方が腹腔鏡下手術を受けておられます。大腸癌が転移し、手術で切除することが困難な場合は、外来化学療法を行っており、入院することなく治療が受けられるようなシステムを整えております。当院では、検査や治療を受けられる方に、安全で負担の少ない医療を安心して受けただけのように、心がけております。



後列/外:間狩医師、外:加藤(健)医師、内:由良医師、内:三代医師、内:加藤(文)医師、川上補助業務員
前列/内:山北医師、内:亀山医師、外:三宅医師、内:西原医師、荒谷看護師、木村看護師

呼吸器グループ 内科 山口医師

最近咳が長く続いて受診されるかたが増えています。原因については肺癌や結核を思い浮かべるかたも多かもしれませんが、タバコを吸っている人では肺気腫や慢性閉塞性肺疾患(COPD)が多く、患者さまの数は日本

では500万人とも言われています。また風邪の後に咳が続く場合はマイコプラズマやウイルスの他、百日咳も流行しており薬も効かないひどい咳が続きます。さらに気管支喘息につながる咳喘息など多くの病気があります。もし咳などの呼吸器症状が気になるかたは、地域の診療所から紹介いただければ胸部CTや肺活量など精密検査や治療を行わせていただきます。



左から 内:山口医師、外:黒川副院長

内分泌代謝グループ 内科 小室医師

子どもの対象で最も代表的な病気は糖尿病です。糖尿病は脳・心筋梗塞などの致死的血管合併症や失明・透析などにつながる深刻な病気です。他部門とも連携して糖尿病支援チーム(P.1参照)も組織し、最先端の治療法を取り入れ、糖尿病の予防・治療・合併症進展抑止を目指しています。

最近話題のメタボリックシンドロームや動脈硬化の基盤として重要なコレステロールの異常も専門分野です。女性に多く見られるバセドウ病・橋本病などの甲状腺疾患も取り扱う頻度が大変高く、また副腎、副甲状腺、脳下垂体疾患も対象とし、グループ全体で取り組んでいます。



後列/内:正田医師、内:井端医師
前列/内:小室医師、内:豊高病院長

循環器グループ 内科 高島医師

狭心症の一例

胸部圧迫感あり受診された。まず症状を詳しくお聞きし、できるだけ負担の少ない検査から調べます。(心臓超音波、トレッドミル運動負荷、時にホルター心電図。)狭心症の可能性が高い場合にはさらに負荷心筋シンチや必要なら心臓CT検査を試行。最終確定診断には冠動脈造影検査が必要です。狭心症と診断されれば適切な生活指導・薬剤と原則当院で冠動脈形成術の治療を行っています。冠攣縮狭心症の場合は内服薬で可能です。緊急性の高い場合には直ちに対応しています。院内医師、応援医師と臨床工学技士、技師、看護師の協力ががんばっています。

緊急で直ちに治療が必要な場合は千里救急救命センターや国立循環器病センターなどと連携しています。

再発、進行の予防のためにエビデンス(根拠)に基づ

内：内科
外：外科
神内：神経内科

が協働し、臓器別等のグループにより診療を行っています。

いた治療や、食生活、嗜好、メタボリック症候群の指導にも重点を置いています。

またペースメーカーの植え込み術も行っています。

当院に循環器疾患で受診される方は虚血性心疾患、心不全、不整脈などが多数です。診断にあたってできるだけ侵襲が少ない検査から始め、患者さまに丁寧に説明しきちんとした治療方針を決定しています。



左から 木村看護師、内：高島医師、福田臨床工学技士、内：金井医師

血液グループ 内科 畦西医師

血液グループでは白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫といった造血器腫瘍の診断・治療、貧血や出血傾向の精査・加療などを行っています。

病棟には抗癌剤治療により感染しやすい状態に陥った患者さまを収容するクリーンルームも完備しており、また難治性の造血器腫瘍に対して自己末梢血幹細胞移植なども行っています。大学病院などの移植関連施設とも連携しており、骨髄移植が必要な患者さまはそちらに紹介させていただいています。かかりつけ医などでリンパ節の腫れ、出血傾向、血液検査で貧血や白血球、血小板の異常を認められた時などは、当院内科を受診ください。



左から 内：山口医師、内：畦西医師、内：信岡医師

肝胆膵グループ 外科 大島医師

肝臓、胆嚢、胆管、膵臓疾患の治療をしています。治療方法は手術が中心ですが、胃カメラを使った治療や、抗癌剤治療なども行います。

扱う疾患で最も多いのは、胆石症です。胆嚢結石の治療は胆嚢摘出術になります。当科ではほとんどの症例で開腹せずに腹腔鏡下に手術を行っています。昨年の腹腔鏡下胆嚢摘出術は114例、開腹での胆嚢摘出術は4例のみでした。

総胆管結石は胃カメラを用いて摘出し、できるだけ手術を回避するようにしています。

肝臓癌の治療は、肝臓の切除術を行っています。内科や放射線科とも連携して、ラジオ波による焼灼術や、カテーテルによる治療も行っています。

胆管癌、膵臓癌の治療は大きな手術が必要になることがあります。そのような大きな手術の一つである膵頭十二指腸切除術も積極的に行っています。



左から 外：大島医師、内：田村副院長、内：高石医師

神経内科グループ 神経内科 曾我医師

神経内科の担当する病気は 脳卒中、脳炎、髄膜炎、てんかん、多発性硬化症などの急性症状がみられる脳神経系の疾患から、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などの神経難病、そしてめまい、しびれ、頭痛、物忘れなどのありふれた症状を生じる疾患まで多岐にわたっております。神経内科専門医であるスタッフ2名が交代で外来診察、入院治療を行っており、筋電図、脳波、CT、MRI、脳血流SPECTなどの検査が可能です。脳神経外科、整形外科、内科、リハビリテーション科など院内各科と協力して治療を行っております。



左から 神内：曾我医師、神内：高群医師

一般外科(総合外科)グループ 外科 黒川副院長

鼠径ヘルニア(いわゆる脱腸)を中心に紹介患者さまを受け付けています。鼠径ヘルニアは仕事を長く休めないかたや主婦のかたのために日帰り手術センターで1泊入院の手術も行っています(年間100例)。たとえば金曜日入院し、手術を受けて土曜日に退院、月曜日から通常の仕事に復帰できます。その他、緊急で切開処置が必要な疾患(肛門周囲の発赤や痛みなど)と頸部や皮下の腫瘍の初診を行い専門外来へ繋ぐ役割も果たしています。

「これは切る必要がある病気で？」というかたのための窓口です。ご利用の程、よろしくお願ひします。



左から 外：星医師、外：黒川副院長、外：土井医師

Wave of Nursing (看護部ニュース)

認定看護師の紹介 その2

新年を迎え、新たな気持ちでスタートです。

さて、今年も前回に引き続き認定看護師の活動を紹介します。今回は、救急看護認定看護師で3名の看護師が活動しています。主に、ER（救急総合診療部）とICU（集中治療室）で活動しています。

外来では、主に救急総合診療部で、救急隊からのホットライン（直通電話）を受け、患者さまの状態を把握し、受け入れの準備を行います。また来院された患者さまに直接問診しながら全身状態を把握し、予測される問題や緊急性について判断することも行っています。その他に電話での相談にも対応しています。相談内容で一番多いのは「受診をするほうがよいか」の問い合わせです。対処方法などのアドバイスをすることで、自宅で様子を見られる場合も少なくなく、約半数のかたが来院せずに済んでいます。しかし、実際に状態を診ているわけではないため、判断に困ることも多いのは事実です。その場合は、医師に相談しています。

緊急を要する患者さまの治療を最優先しますが、同伴されたご家族のかたへの支援も患者さまと同様に大切にしています。たとえば医師からご家族に説明を行う時には、できるだけ同席することにしていきます。そうすることで、説明後にご家族が患者さまの状態をどれだけ理解できた

かを知ることができ、疑問点にお答えすることができます。また医療用語など難しく思われたことについては、再度わかりやすく説明することも重要です。

集中治療室では、患者さまの刻々と変化する状態の把握に努め、多くの機器に囲まれている患者さま、ご家族のかたに精神面の援助などを行っています。

私たちは、各々臨床現場で救急領域の知識や技術を発揮しながら業務に従事する一方で、状態が急変した場面を設定しての技術指導や病院内統一の「急変時の対応」についてのマニュアル作成なども行っています。また、院内だけでなく救急蘇生に対する知識と技術を広げていくために、救急看護認定看護師と医師が協力し「二次救命処置コース」という勉強会を4回/年開催しています。対象者は医療従事者で病院のホームページ上で一般募集をし、外部からの参加も募っています。受講生全員に満足してもらえるような勉強会になるよう努めています。

救急蘇生を行うことは、一年に何度も起こるわけではなく、遭遇した時に的確に対応できるように、日々シミュレーションを通して学習を重ねていくことが大切であると考えています。

【救急看護認定看護師 亀川 祐子】



救急看護認定看護師 左から亀川、大島、酒崎



平成21年度医療・看護フェアのお知らせ

今年も医療・看護フェアを5月14日（木）・15日（金）に開催いたします。

当院では毎年、5月12日のナイチンゲール生誕にちなんで医療・看護フェアを実施しています。当院が提供している医療・看護・地域連携などについて、より具体的に紹介し市民の皆様や患者さまに理解を深めていただきたいと考えております。

内容については、各種相談・測定はもちろんのこと、医師・看護師・医療技術職員のチームワークで作る講演会、病院探検ツアー、1日看護師体験など、実行委員のメンバーを中心に準備しています。

開催日は、爽やかな5月です。来院されたかたに喜んでいただけるよう、職員一人一人の協力のもと頑張ってお待ちしております。

新任医師紹介



①所属科 ②卒年 ③自己紹介



久保 重喜

①脳神経外科
②昭和63年卒

③本年1月から赴任しました。前任地は難波の富永病院です。脳外科専門病院で6年間勤務して多くの患者さまの手術を担当させていただきました。脳外科全般を扱いますが、特に神経内視鏡手術を専門としています。下垂体腫瘍、水頭症、脳内出血などを低侵襲に治療できます。当院では脳外科医は一人しかいませんが、市民の皆様のニーズに答えるべく努力したいと思います。



鹿野 博亀

①整形外科
②平成7年卒

③本年1月から赴任しました。整形外科疾患一般にわたり診療させていただきます。なんでもお気軽におたずねください。



松本 孝平

①皮膚科
②平成16年卒

③昨年10月より皮膚科レジデントとして採用いただき診療させていただいております。まだまだ勉強中の身ですが、皮膚のトラブルが少しでも早くきれいに軽快するようお役に立てれば幸いです。どうぞよろしく申し上げます。

部門紹介

医療サービス担当

今回のMichでは、『医療サービス担当』という職場を紹介します。皆さんは、『医療事務』という言葉聞いたことがあるでしょうか。医療事務の主な業務は患者さまの受付、案内、診療費の会計や患者さまが加入されている健康保険への請求事務などです。私たちは、その医療事務を担当しています。

受付・案内業務では病院の顔として、毎朝、患者さまに笑顔で対応できるように心がけています。受付カウンターの奥には事務所があり、20人程のスタッフがいます。皆さんも病院で受付や会計をするときに、カウンターの奥で人がたくさん座っているのを目にされたことがあるのではないのでしょうか。外には出てこず、その中で一体何をしているのか疑問に思われることもあると思います。事務所内では、入院費の計算、健康保険・保険会社への請求、予約変更の手続き、電話での問い合わせ対応、業務の企画・提案など、様々な事務を行っています。医療費の計算や請求は非常に複雑なものになっていて、医療制度に精通したスタ

ッフが集中してその業務に取り組んでいるのです。

直接診療には関わりませんが、患者さまが安心して、より円滑に医療を受けられるよう患者サービス第一を心がけています。

また、医療サービス担当では電子カルテなど病院全体のシステム管理を行っています。当院の受付や診療費の計算も今やIT化されているため、システム管理は病院運営に欠かせないものになっています。



医療サービス担当は当院の正面玄関から一番近いところにありますので、ご意見やご相談がありましたら、お気軽に声をおかけ下さい。今後とも、患者サービスの向上に努めていきますので、よろしく申し上げます。



医療サービス担当職員
(左から)三宅、吉川、岩間、森川



Jazz クリスマスコンサート

12月18日(木)午後3時30分から、クリスマスコンサートを開催しました。今回は、Chuck&PantyBandのみなさんによるしっとり落ち着いたジャズの演奏でした。参加されたかたはゆったりと耳を傾けておられました。

最後には、恒例のクリスマスソングをみんなで楽しく合唱しました。



病院機能評価の認定病院を更新しました

昨年11月17日付けで当院が病院機能評価(Ver.5.0)の認定を更新しました。

あまり聞き慣れないかもしれませんが、病院機能評価とは、第三者機関である財団法人日本医療機能評価機構が、医療機関の質や機能を専門的な立場でさまざまなチェックを行い、一定の基準に達しているかどうかを評価する制度です。

当院は、平成15年8月に最初に認定を取得し、認定期間(5年)満了にともない、改めて審査が行われ、引き続き認定更新となったものです。

評価の内容は、「療養環境と患者サービス」、「診療の質の確保」など6領域、532項目について、書類による事前審査と訪問審査が行われました。

訪問審査は、昨年7月8日から7月10日まで、7名の審査員(リーダー1名、医師2名、看護師2名、事務2名)が来院され、感染防止対策、医療安全対策から、患者さまのプライバシーの確保ができていないか、案内が見やすく掲示されているかなど、各部署を訪れ、職員への聞き取りや書類などのチェックを行いました。

審査を受けることによって、病院に何が足りていないのか、どうすれば患者サービスと安全が向上していくのかなど職員が一丸となって検討していくことによって、問題点を把握し、病院機能を改善していくことができます。

今後も、この認定取得を機に、さらなる医療の質の向上と患者サービスの充実に努めてまいります。

病院機能評価対策委員会委員長 山崎 紘一

英語通訳ボランティア

箕面市立病院では、1月13日から院内において、『みのお外国人医療サポートネット』のスタッフが、英語の通訳ボランティアとして試行的に活動を始めました。

箕面市には仕事や留学の関係で、多くの外国のかたが住まれています。長く滞在されると、病院を受診される機会もあり、その際の大きな問題が、言葉の理解です。言葉が十分に通じないと、満足な診察を受けられなかったり、薬の飲み方ひとつにも不安を覚えるのではないのでしょうか。ひいては受診そのものを控えたりすることもあるかもしれません。

通訳ボランティアは、そういう外国人市民の不安を解消し、受付から診察や検査まで、また、入院された際の説明など、通訳が必要とされる場面で、少しでもスムーズな受診を助けるため、活動していただいています。

この活動を通じて、外国人市民のサービス向上と、ひいては医療安全の一助となれば幸いです。多くのかたのご利用をお待ちしています。

活動日時は、祝日を除く月、火、金曜日の午前9時から正午まで。対象言語は英語のみです。

編集後記

昨年夏、(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し、Ver.5の認定を受けました。

この時の審査員に、みのお外国人医療サポートネットの協力を得られていることが高く評価され、翌日わざわざ案内パンフレットを取りに来られました。今年から更に院内での活動を充実されるとのことで、ボランティアの方々の努力に敬意を表します。